

## 【発表抄録】

基調講演「那賀イーと，つながる・みまもるプロジェクトを考える」

徳島大学大学院医歯薬学研究部 白山 靖彦

「那賀イーと，つながる・みまもるプロジェクト」は，平成 29 年度に当学が採択されました「中山間地域の地域包括ケアシステム構築における食支援連携促進に資する ICT 利活用に関する調査研究事業(平成 29 年度老人保健健康増進等事業：四国厚生支局)」のことであり，その略称名です．ICT を利活用し，在宅医療・介護の連携において，全身と口腔・食を一体的につなげるシステムを開発・運用することを目的としました．すでに徳島県的那賀町で運用され，今年に入り，要介護高齢者など，登録者が約 2,000 名，タブレット端末などで入力できる権限のある専門職が約 200 名となりました．

以前から那賀町の相生包括ケアセンターの濱田邦美医師が，そういったシステムを自らの手でつくり，町内の地域において運用していましたが，より進化・高度化させていく意味で，システムの共同開発に挑みました．また，大学の有する人的資源を最大限活用し，医療・福祉職の方への口腔ケア研修なども実施しました．その中で得られた最大の成功要因は，システムの導入・運用を図るには，「顔の見える関係」から「ふつうに話ができる関係」へと発展していくことだと分かりました．まさしく，関係性の強化です．当然，よく知らない人とは，メールや SNS 上のやり取りをしません．つまり，在宅医療・介護の連携においても同様で，よく知らない医師や看護師，介護職の方とは，大切な患者・利用者さんの情報を共有することはしない・できない，ということです．したがって，ICT を利活用した医療・介護の連携を果たすには，地域ごとにそれぞれの職種間の密度を増す工夫が必要となります．それが，研修であり，会議なのかもしれません．

那賀町は，人口 8,573 人(2018.10.1 現在)を有する典型的な中山間地域です．面積は淡路島よりも広く，町内を縦断するのに車で 2 時間もかかります．ですから，介護保険制度でいう地域ケア会議や，サービス担当者の開催には，莫大な時間と労力を要してきました．それを解決するのが ICT の力なのでしょう．一瞬で情報が共有でき，自分の意見を発信したらすぐに遠く離れたところからでも返信がくる．また，その内容が自動的に記録されていく．とっても有用です．この有用性を最大限生かしたシステムは，今後も進化していくことと思います．我々もそれについていけるように，また，それより少しでも前にいけるよう頑張っていきたいと考えています．

最後に，本研究にご尽力賜りました四国厚生支局の皆様，ご協力頂いた那賀町の皆様に心よりお礼申し上げます．